第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

<table>
<tr><td colspan="2">セッション名：計画基礎論（１）</td></tr>
<tr><td colspan="2">日付：１１月　　１日　（　土）曜日、セッション時間：　　９：００　～１０：３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">司会者名（所属）：加藤　浩徳　（東京大学）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">討議内容</td><td>セッション全体：
・倫理的問題の解消のためには、社会システムの変更が必要である。
・マクロ経済学的議論が、土木計画学には欠けており、今後深めていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>（１６）羽鳥剛史（東工大）
①平均値の数値の意味は？　→　コールバーグ指標とは無関係。
②個人の倫理水準はどう影響するのか？　→　倫理水準の低い人については、データからは検証されなかった。
③土木の固有性は？　→　一般の人と比較していないのでわからない。
④立場によって考えが変わるのではないか？コールバーグの第５、６段階をリスクをもってのぞめるか？　→　何とか折り合いをつけるしかないだろう。</td></tr>
<tr><td>（１７）伊地知恭右（(社）北海道開発技術センター）
①幼少期は重要なのか？　→　そうである。
②家庭内・地域内コミュニケーションは結果に影響を及ぼすのか？　→　少なくとも本研究からはそうである。ただし、留意すべき点がある。詳細は、すぐに回答できないので、後で個別に議論することにしたい。
③今後の展開は？　→　他の書籍や被験者を対象とした調査を行いたい。</td></tr>
<tr><td>（１８）木下栄蔵（名城大学）
①ケインズの理論とは何がちがうのか？　→　金利の操作ではなく、政府が財政出動することを前提としている点。</td></tr>
</table>